

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月8日
【四半期会計期間】	第75期第3四半期（自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社アルファ
【英訳名】	ALPHA Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 木之瀬 茂
【本店の所在の場所】	神奈川県横浜市金沢区福浦一丁目6番8号
【電話番号】	045（787）8400（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 大谷 邦昭
【最寄りの連絡場所】	神奈川県横浜市金沢区福浦一丁目6番8号
【電話番号】	045（787）8400（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役専務執行役員 大谷 邦昭
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第74期 第3四半期連結 累計期間	第75期 第3四半期連結 累計期間	第74期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高（百万円）	34,763	35,343	47,674
経常利益（百万円）	853	1,864	1,837
四半期（当期）純利益（百万円）	637	1,283	1,072
四半期包括利益又は包括利益 （百万円）	108	1,430	1,123
純資産額（百万円）	17,452	19,519	18,463
総資産額（百万円）	36,302	39,900	38,901
1株当たり四半期（当期）純利益 金額（円）	66.78	134.31	112.29
潜在株式調整後1株当たり四半期 （当期）純利益金額（円）	—	—	—
自己資本比率（％）	46.3	47.6	46.0
営業活動による キャッシュ・フロー（百万円）	1,162	545	1,463
投資活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△1,491	△2,435	△1,782
財務活動による キャッシュ・フロー（百万円）	△605	365	1,243
現金及び現金同等物の四半期末 （期末）残高（百万円）	5,752	5,933	7,686

回次	第74期 第3四半期連結 会計期間	第75期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額（円）	45.11	68.91

- （注）1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の世界経済は、米国では緩やかな回復傾向を維持しましたが、欧州での債務問題の長期化、中国及び新興国の経済成長の鈍化など、不安定な状況が継続いたしました。

日本経済は、世界景気の減速感を背景として低調に推移いたしました。年末における政権交代に対する期待感から、株式市況の持ち直しや、円安の進展が見られました。

当社グループの属する自動車業界では、北米、アジアにおいて生産台数が前年同期に比べ増加いたしました。また、日本ではエコカー補助金の効果等があり、生産台数は前年同期に比べ増加いたしました。

セキュリティ機器業界では、新設住宅着工戸数が堅調に推移し、個人消費はおおむね横ばいで推移いたしました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高については、前年同四半期比1.7%増の35,343百万円となりました。利益面については、営業利益は1,540百万円（前年同四半期比23.2%増）、経常利益は1,864百万円（同118.4%増）、四半期純利益は1,283百万円（同101.1%増）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

① 自動車部品事業（日本）

自動車部品事業（日本）におきましては、海外への生産移管が進み、売上高は16,023百万円（前年同四半期比13.0%減）、営業利益は475百万円（同48.1%減）となりました。

② 自動車部品事業（北米）

自動車部品事業（北米）におきましては、主要得意先の生産台数が増加したことにより増収となりましたが、生産移管の遅れにより費用が増加していることから、売上高は6,677百万円（同7.9%増）、営業損失は483百万円（前年同四半期は営業損失451百万円）となりました。

③ 自動車部品事業（アジア）

自動車部品事業（アジア）におきましては、生産効率の向上、合理化を進めたこと等により、売上高は13,321百万円（同23.4%増）、営業利益は1,313百万円（同86.6%増）となりました。

④ セキュリティ機器事業（日本）

セキュリティ機器事業（日本）におきましては、継続した電気錠の販売好調や、コインロッカーの販売及び、オペレーション収益が増加したこと等により、売上高は4,553百万円（同22.5%増）、営業利益は316百万円（同335.2%増）となりました。

⑤ セキュリティ機器事業（海外）

セキュリティ機器事業（海外）におきましては、売上高は120百万円（同3.8%増）、営業利益は34百万円（同277.1%増）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況につきましては、営業活動によるキャッシュ・フローが545百万円の収入、投資活動によるキャッシュ・フローが2,435百万円の支出、財務活動によるキャッシュ・フローが365百万円の収入となりました。

以上の結果、換算差額を含めた当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前第3四半期連結会計期間末に比べ181百万円増加し、5,933百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

売上債権の増減額が1,742百万円増加しましたが、たな卸資産の増減額が1,432百万円減少したこと、仕入債務の増減額が1,091百万円減少したこと等により、当第3四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間に比べ616百万円収入が減少し、545百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

有形固定資産の取得による支出が1,064百万円増加したこと等により、当第3四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間に比べ943百万円支出が増加し、2,435百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入れによる収入が1,005百万円増加したこと等により、当第3四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、前第3四半期連結累計期間に比べ971百万円収入が増加し、365百万円の収入となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題はありません。

なお、当社は平成22年8月6日開催の取締役会において、「当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」を決議いたしました。その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

① 基本方針の内容

当社は、自動車や住宅、そして産業用機器等の様々な分野にキーとキーレス商品を提供する総合ロックメーカーとして、「日々新たに、自らを変えていく」という企業理念のもと、時代に合わせて自らを変え、お客様のニーズにあった製品を提供し、「安全・安心・利便性」をお届けすることで社会に貢献しております。そして、安定した財務体質を維持し、事業環境の変化があっても収益を創造し確保する磐石な企業体質を有するグローバルな企業を目指しております。

上記の企業理念と目指す姿を実現するため「個々の質を高め、お客様に喜ばれる価値を創造・提供します」という経営理念のもと、世界各国からのお客様のニーズにお応えできる新製品の開発と生産・供給体制の構築・改善を継続的に行っております。この活動を支えるのは、当社グループのすべての役員及び従業員の一人ひとりが責任を果たし、全員で企業価値向上に取り組むという、長年の企業文化を共有する人材であると考えております。

また、株主還元につきましては、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定した配当を継続して実施していくことを方針としております。

当社は、当社の株式の大量取得を目的とする買付が行われる場合、それに応じるか否かは、最終的には株主の皆様の判断に委ねられるべきものと考えており、経営支配権の異動を通じた企業活動の活性化の意義や効果を否定するものではありません。

従いまして、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の経営理念の実現のため、上記の経営方針の実行と企業価値向上に中長期的に継続して取り組む者であるべきと考えております。

② 不適切な支配を防止するための取組み

現在のところ、当社は、当社の株式の大量取得を行う者に対し、これを防止する具体的な取組み（いわゆる「買収防衛策」）を予め定めておりませんが、当社の株式の大量取得を企図する者が出現した場合には、当社は社外の専門家を交えて当該取得者の提案内容を上記の基本方針や株主共同の利益に照らして、慎重に判断いたします。

当該大量取得が不適切な者によると判断した場合には、下記の要件の充足を前提として、具体的な対抗措置の内容等を速やかに決定し、実行いたします。

イ、当該措置が基本方針に沿うものであること

ロ、当該措置が当社の株主の共同の利益を損なうものではないこと

ハ、当該措置が当社の役員の地位の維持を目的とするものではないこと

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、1,043百万円であります。

(5) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、新製品開発競争や熾烈な価格競争の激化等厳しさを増しています。特に、グローバル競争が激化する自動車メーカーからのコストダウン及びグローバルでの製品供給の要請が強くなっております。これらの要請に応えるため、当社グループは本社機能の体質強化と、グローバルでの収益・コストの構造改革及び販売・生産・開発・調達体制の強化を加速させ一層の原価削減に努め、事業基盤の確立に取り組んでいます。

また当社は海外グループ売上高が比較的高いため、為替変動により影響を受ける可能性があります。

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は39,900百万円となり、前連結会計年度末に比べ998百万円の増加となりました。また、有利子負債は前連結会計年度末に比べ963百万円増加し、9,963百万円となりました。

流動資産は、原材料及び貯蔵品が929百万円、商品及び製品が429百万円増加しましたが、現金及び預金が2,176百万円減少したこと等により、827百万円減少し、22,397百万円となりました。

固定資産は、有形固定資産が1,283百万円増加したこと等により、17,502百万円となりました。

流動負債は、短期借入金が735百万円増加しましたが、支払手形及び買掛金が775百万円、賞与引当金が196百万円減少したこと等により、237百万円減少し、11,780百万円となりました。

固定負債は、退職給与引当金が200百万円減少しましたが、長期借入金が371百万円増加したこと等により、180百万円増加し、8,600百万円となりました。

また、純資産は、利益剰余金が977百万円増加したこと等により、19,519百万円となりました。以上により、自己資本比率は前連結会計年度末の46.0%から1.6ポイント増加し47.6%となりました。

(7) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループの経営陣は、現在の事業環境及び入手可能な情報に基づき最善の経営方針を立案するように努めております。昨年度、自動車部品事業の主要得意先が中期的な大幅増産計画を発表し、更なるグローバル競争の激化が予想される中、当社グループはこの環境に的確に対応すべく、物的・人的な拡充を図り、お客様のニーズを満たす魅力ある商品を常に提供し、収益を拡大することにより株主価値の向上を目指します。また、地球環境問題についても積極的に取り組み、全ての事業を通じて世界中のお客様から安心・信頼される『アルファブランド』の地位を確立していきます。そのため、以下の事項を課題と認識し、その解決に取り組んでおります。

- ① 得意先の拡大戦略に伴う生産体制の充実と整備
- ② 良品廉価な新製品と新事業の開発
- ③ 上記の原動力となる人材成長の強化

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	40,800,000
計	40,800,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成24年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成25年2月8日）	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	10,200,000	10,200,000	東京証券取引所 （市場第一部）	単元株式数 100株
計	10,200,000	10,200,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金増減額 （百万円）	資本金残高 （百万円）	資本準備金 増減額 （百万円）	資本準備金 残高 （百万円）
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	—	10,200,000	—	2,760	—	2,952

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 647,300	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 9,550,900	95,509	—
単元未満株式	普通株式 1,800	—	—
発行済株式総数	10,200,000	—	—
総株主の議決権	—	95,509	—

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数（株）	他人名義所有 株式数（株）	所有株式数の 合計（株）	発行済株式総数 に対する 所有株式数の割 合（％）
株式会社アルファ	神奈川県横浜市金沢区福 浦1丁目6番8号	647,300	—	647,300	6.35
計	—	647,300	—	647,300	6.35

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び当第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,807	5,630
受取手形及び売掛金	9,039	8,400
商品及び製品	1,173	1,603
仕掛品	701	886
原材料及び貯蔵品	2,916	3,845
その他	1,600	2,044
貸倒引当金	△13	△13
流動資産合計	23,225	22,397
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,880	3,818
機械装置及び運搬具（純額）	2,513	2,598
土地	1,505	1,670
その他（純額）	2,862	3,958
有形固定資産合計	10,762	12,046
無形固定資産	815	630
投資その他の資産	※2 4,098	※2 4,825
固定資産合計	15,676	17,502
資産合計	38,901	39,900
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,831	6,056
短期借入金	2,256	2,991
未払法人税等	150	202
賞与引当金	471	274
製品保証引当金	181	201
事業構造改善引当金	95	—
その他	2,031	2,054
流動負債合計	12,017	11,780
固定負債		
長期借入金	5,130	5,502
退職給付引当金	585	385
資産除去債務	67	67
その他	2,636	2,644
固定負債合計	8,420	8,600
負債合計	20,437	20,380

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,760	2,760
資本剰余金	2,952	2,952
利益剰余金	13,215	14,192
自己株式	△578	△578
株主資本合計	18,349	19,326
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,262	1,528
為替換算調整勘定	△1,736	△1,862
その他の包括利益累計額合計	△474	△333
少数株主持分	588	526
純資産合計	18,463	19,519
負債純資産合計	38,901	39,900

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
売上高	34,763	35,343
売上原価	29,767	29,998
売上総利益	4,995	5,344
販売費及び一般管理費	3,745	3,803
営業利益	1,250	1,540
営業外収益		
受取利息	17	24
受取配当金	56	42
為替差益	—	320
不動産賃貸料	19	19
その他	56	83
営業外収益合計	149	490
営業外費用		
支払利息	103	103
為替差損	421	—
その他	21	63
営業外費用合計	546	166
経常利益	853	1,864
特別利益		
固定資産売却益	3	46
補助金収入	29	—
その他	—	0
特別利益合計	32	47
特別損失		
固定資産除売却損	19	23
投資有価証券評価損	0	—
製品保証引当金繰入額	—	79
その他	—	25
特別損失合計	20	128
税金等調整前四半期純利益	865	1,784
法人税、住民税及び事業税	232	548
法人税等調整額	△25	△48
法人税等合計	207	499
少数株主損益調整前四半期純利益	658	1,284
少数株主利益	20	1
四半期純利益	637	1,283

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	658	1,284
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△149	265
為替換算調整勘定	△400	△119
その他の包括利益合計	△549	146
四半期包括利益	108	1,430
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	111	1,423
少数株主に係る四半期包括利益	△3	7

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	865	1,784
減価償却費	1,454	1,117
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△19	△3
受取利息及び受取配当金	△74	△67
支払利息	103	103
固定資産売却損益（△は益）	△2	△46
固定資産除却損	18	23
賞与引当金の増減額（△は減少）	△158	△198
製品保証引当金の増減額（△は減少）	△31	19
売上債権の増減額（△は増加）	△930	812
たな卸資産の増減額（△は増加）	△114	△1,547
仕入債務の増減額（△は減少）	203	△887
長期未払金の増減額（△は減少）	△93	△35
その他	225	△33
小計	1,447	1,040
利息及び配当金の受取額	80	66
利息の支払額	△85	△73
法人税等の支払額又は還付額（△は支払）	△279	△487
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,162	545
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,508	△2,572
有形固定資産の売却による収入	724	381
無形固定資産の取得による支出	△23	△32
関係会社株式の取得による支出	—	△269
その他	△685	57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,491	△2,435
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	—	405
短期借入金の返済による支出	—	△150
長期借入れによる収入	1,500	2,505
長期借入金の返済による支出	△1,357	△1,663
配当金の支払額	△296	△305
その他	△452	△424
財務活動によるキャッシュ・フロー	△605	365
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	△229
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△891	△1,753
現金及び現金同等物の期首残高	6,643	7,686
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 5,752	※ 5,933

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形割引高	100百万円	100百万円

※2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
投資その他の資産	3百万円	0百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
現金及び預金残高	5,834百万円	5,630百万円
有価証券勘定（譲渡性預金）	—	350
預入期間が3か月を超える定期預金	△82	△47
現金及び現金同等物	5,752	5,933

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	171	18	平成23年3月31日	平成23年6月27日	利益剰余金
平成23年11月9日 取締役会	普通株式	124	13	平成23年9月30日	平成23年12月16日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決 議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	162	17	平成24年3月31日	平成24年6月25日	利益剰余金
平成24年11月9日 取締役会	普通株式	143	15	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動車 部品事業 (日本)	自動車 部品事業 (北米)	自動車 部品事業 (アジア)	セキュリ ティ機器事 業 (日本)	セキュリ ティ機器事 業 (海外)	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	14,985	6,149	9,863	3,687	77	34,763	—	34,763
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,429	39	930	28	38	4,467	△4,467	—
計	18,415	6,189	10,793	3,716	115	39,231	△4,467	34,763
セグメント利益 又は損失(△)	916	△451	704	72	9	1,250	△0	1,250

(注) 1.セグメント利益又は損失(△)の調整額△0百万円は、セグメント間取引消去△0百万円でありま
す。

2.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	自動車 部品事業 (日本)	自動車 部品事業 (北米)	自動車 部品事業 (アジア)	セキュリ ティ機器事 業 (日本)	セキュリ ティ機器事 業 (海外)	計		
売上高								
外部顧客への 売上高	12,382	6,637	11,741	4,528	53	35,343	—	35,343
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,640	39	1,580	25	67	5,352	△5,352	—
計	16,023	6,677	13,321	4,553	120	40,696	△5,352	35,343
セグメント利益 又は損失(△)	475	△483	1,313	316	34	1,657	△116	1,540

(注) 1.セグメント利益又は損失(△)の調整額△116百万円は、セグメント間取引消去△116百万円でありま
す。

2.セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	66円78銭	134円31銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	637	1,283
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	637	1,283
普通株式の期中平均株式数(千株)	9,552	9,552

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

平成24年11月9日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………143百万円

(ロ) 1株当たりの金額……………15円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………平成24年12月10日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

株式会社アルファ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 磯貝 和敏 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 川瀬 洋人 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アルファの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アルファ及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。